

PTカメラを活用した捕獲罫の見回りコスト及び労力軽減への取組

1.ねらい

鳥獣の捕獲にあたっては、捕獲した個体の放置が法令により禁止されており、罫による捕獲の場合、「最低1日1回」罫の見回りを行うよう一般社団法人大日本猟友会発行の狩猟読本に明記されています。そこで、スマートフォンと通信可能な”PTカメラ(遠隔首振りカメラ)”を導入し、見回りコスト及び労力の大幅な軽減が可能であるか検証を行いました。

2.概要

職員による有害鳥獣駆除の実施に際し、見回り負担の軽減を目的として導入した従来の通報システムは、誤作動の多発により通知の正確性に課題がありました。

この課題を踏まえ、本検証では、携帯電話の電波圏内であれば外部電源が不要(ソーラーパネル駆動)で、スマートフォンからリアルタイムに遠隔視聴が可能な“防犯・防獣用通信カメラMC1”を導入しました。

また、カメラによる遠隔監視、人的な見回り、従来の通報システムの各手法をシミュレーション条件に当てはめ、コスト及び労力の比較検証を行いました。



3.成果

10日間の検証の結果、全期間において、スマートフォンから現地の状況を確認することができ、見回りに代替する手法として、十分実用可能であると判断されました。また、遠隔視聴の活用により、現地へ赴く必要性が解消され、任意のタイミングでの状況確認が可能となりました。

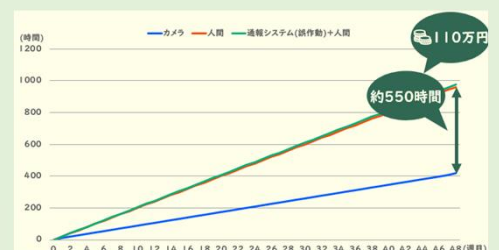
カメラ、人的な見回り及び従来の通報システムで1年間運用した場合のシミュレーションでは、カメラは初期コストを要するものの、約32週目で人的な見回りのコストを下回る結果となりました。また、見回りにかかる労力は、人的な見回りと比較して年間約550時間の削減が可能となり、人手不足の解消や大幅なコスト削減に寄与することが実証されました。



PTカメラで確認できたニホンジカ



見回りコストの比較



見回り労力の比較



4.問い合わせ先

南信森林管理署

電話050-3160-6060